

編 集 後 記

東日本大震災から丁度2年を経過したが、その痕跡は未だ我々の前に大きく立ちはだかっている。県庁所在地に原発施設を有する島根県の医療従事者としては事故が起きた場合には何が出来るのか、我々もそれぞれの立場で真剣に考える必要があるのではないか。

今回の生涯教育講座では、変形性膝関節炎の客観的な診断基準が未だ定まらず、その治療法についても限界があり保存的療法が基本とのこと、これだけ高齢化が進んで老人医療も進歩してきているのだから、痛みや歩行困難等、症状が悪化する前の早期の微症状やX線変化等からの予防的対処法はないものであろうか。情報機器利用と小児期の睡眠の関連については、既に1980年代に3歳児検診のアンケート調査で、一日の平均テレビ視聴時間が2時間以上が最も多かった結果に驚いたのを記憶しているが、四半世紀過ぎてさらに様々な情報機器利用が日常茶飯化している現代社会で、今回の調査は教育関係者に警鐘を鳴らすものとして有意義であり、さらに多くの学区を調査して予防対策が講じられることを願っている。研究論文の若年成人発症の心血管疾患死亡率が米国のそれと匹敵するとのデータについては由々しき問題である。日本食が世界的に見直されているにも関わらず、スナックやレトルト食品等の氾濫による脂質や糖質の過剰摂取・朝食を食べない子どもたちの増加等、既に小児期から肥満や高脂血症が気になる時代になりつつある。疫学だけにとどまらない予防的見地からの論文も期待したい。

(H・S)

島根医学編集委員

岩本正敬， 貴谷 光， 俵 公平， 児玉和夫， 葛尾信弘，
森本紀彦， 浅野博雄， 木下芳一， 佐藤比登美， 井川幹夫，
中山健吾， 徳島 武

島 根 医 学

平成25年3月31日発行

発行者	島 根 県 医 師 会
編 集	益田市乙吉町 編集者 岩本正敬
発行所	松江市学園南2丁目3番11号 有限会社 松陽印刷所